

横浜市交通局

横浜市営地下鉄ブルーラインの快速運転開始について

1 快速運転検討の経緯

横浜市営地下鉄ブルーラインは、昭和 47 年 12 月に上大岡駅から伊勢佐木長者町駅間（5.2km）の開業以来、数度の延伸開業を重ね、現在はあざみ野駅から湘南台駅間（40.4km）の路線となり、市北部から横浜都心部を経て市南西部を結ぶ基幹鉄道として重要な役割を担っています。一方で、路線延長に伴い所要時間が長くなり、速達性の向上についてお客様から期待や要望が寄せられるようになりました。

このような中、平成 24 年度に策定した「市営交通中期経営計画」において、快速運転の実施に向けた検討を行うこととし、現行設備の有効活用を基本とした快速運転について検討を進め、郊外部と都心部の一体化など横浜市域のバランスある発展を目的として、平成 27 年 7 月 18 日（土）から快速運転を開始しました。

2 快速運転の概要

(1) 停車駅

快速列車は、あざみ野駅から湘南台駅までの 32 駅のうち、18 駅に停車

(2) 主な所要時間

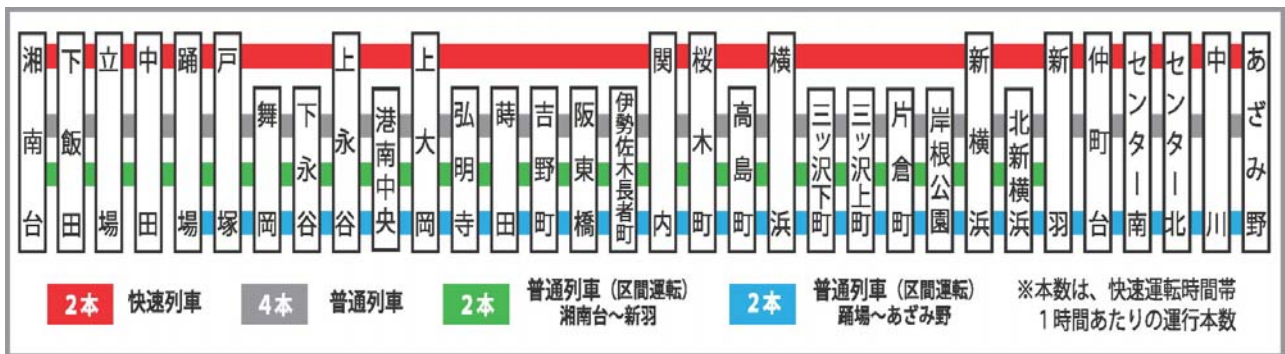
- 横浜駅～新横浜駅（11 分 → ノンストップで 8 分）
- 戸塚駅～関内駅（22 分 → 17 分）
- 全線（普通列車に対して最大で 10 分短縮）

(3) 運転時間帯

- 平日（10 時～16 時）
- 土休日（9 時 30 分～16 時）

(4) 運転本数

快速運転開始前の 1 時間あたり 8 本を維持しつつ、新たに、快速列車を 1 時間あたり 2 本運転



(停車駅と1時間当たりの運転本数)

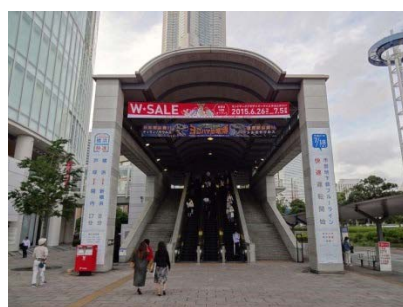
3 チーム交通としての取組み

快速運転については、運輸及び技術等の専門知識を有する職員から成るプロジェクトチームを結成し、その中で課題を解決、また、安全面を検証して、長年の念願であった快速運転を導入することができました。また、快速運転のPRについては、他鉄道とタイアップや横浜市庁舎、区役所などに横断幕を掲出するなど、戦略的PRを行いました。

また、ダイヤ改正にあたり、地下鉄のダイヤにバス時刻（一部）を合わせるなど、市営交通として更なる利便性向上を図ることができました。



(告知ポスター)



(桜木町・動く歩道に掲出した横断幕)



(市庁舎に掲出した横断幕)

4 快速列車の出発式

快速運転の開始にあたり、関東運輸局鉄道部長、横浜市副市長、水道・交通委員会委員長の列席のもと、あざみ野駅で出発式を行いました。この出発式では、約 200 名の市民の皆様とともに、快速一番列車の出発を見送りました。



(テープカット)



(快速一番列車の出発)

5 快速運転の効果

一日あたりの乗車人員は、横浜駅～新横浜駅間や戸塚駅～関内駅間で前年度に比べて増加しており、快速運転実施の効果があったと考えられます。

6 お客様の声

お客様からの声としては、郊外部から都心部への利便性が向上したとのご意見がある一方、朝ラッシュ時間帯における快速列車の運行や快速列車の増発、停車駅に関するご意見などをいただいています。

7 将来に向けて

今回の快速運転については、初めての試みであり、お客様からも様々なご意見が寄せられています。今後、ご利用状況を検証・分析し、より利便性の高いダイヤを検討するとともに、将来のラッシュ時間帯の快速運転実施の可能性についても研究していきます。